

# 防災だより 第16号

吹田市  
危機管理室  
令和8年3月

## 吹田市一斉合同防災訓練を実施！

2026/1/18

令和8年1月18日(日)に吹田市一斉合同防災訓練を実施しました。

吹田市一斉合同防災訓練は、地域と市の情報伝達体制の確認、市民一人ひとりの防災意識と地域防災力の向上を図ることを目的とする訓練です。

事前訓練では、非常持ち出し品や避難経路の確認、緊急避難集合場所の確認を行いました。

当日訓練では、各地域での安否確認や市災害対策本部への安否情報の報告、防災行政無線による地域から報告のあった避難者総数の放送を行いました。

また、一部地域では地域の独自訓練が実施されました。

今年度の吹田市一斉合同防災訓練では、市内の小中学校での備蓄物資の確認や避難所レイアウトの確認のほか、今年度より導入した『避難所マネジメントシステム』の検証を地域の皆様と共に行いました。本システムは、安否確認の迅速化、被災者支援(避難所の環境改善・物資の提供等)の迅速化を目的としています。

今回の実証実験では、生の情報をリアルタイムで入力・確認を行う事ができる効率性・有効性が確認できました。

一方で、操作が難しい、受付に必要な物品の周知不足など課題がありました。

本訓練で実施した、地域災害対策本部と校区防災要員の情報伝達訓練における避難者数は**7,596人**でした！

今後も、本市の防災力の向上に努めてまいりますので、訓練への御参加や御家庭での準備・対策に御協力のほど、よろしくお願いいたします。



避難所マネジメントシステム  
実証実験の様子



### 地域での訓練の様子



### 緊急避難集合場所

ここは、災害時等に自治会等が  
決めている緊急避難集合場所です。

緊急避難集合場所とは、発災時における各地域内での安否確認等を行う集合場所のことです。場所の選定・決定は地域が行っています。

- ・緊急避難集合場所看板を危機管理室にてお渡ししています。御入用の地域は、危機管理室までお問い合わせください。
- ・各地域の緊急避難集合場所は、市報すいた1月号に掲載しています。詳しくは市報を確認、もしくは危機管理室へお問合せください。

令和8年2月15日(日)に、**吹田市地域防災リーダー育成講習**を実施しました。

本講習は、地域の防災力を高める“担い手”を育てることを目的に、吹田市の地域特性を知り地域に根差した防災活動を行う人材の育成、災害対応や防災に関する知見の習得、多様な立場の講師からの講義・講演による防災リーダーとして必要な知識・技術の習得を行っています。

今年度は新たに**34名**が地域防災リーダーとして登録されました！

## 【令和7年度吹田市地域防災リーダー育成講習の紹介】

### ●講義1 **地域防災リーダーの役割・吹田市の取組紹介**(右図)

(講師:危機管理室職員)

- ・吹田市で発生する災害を知ったうえで防災リーダーの役割を学ぶ。
- ・吹田市の取組を知り、そこにリーダーがどう関わるのかを学ぶ。



### ●講義2 **吹田市自主防災組織～東山田での活動～**(講師:東山田地区自主防災対策委員会)

- ・吹田市の自主防災組織がどんな想いを持って活動しているのか、活動の具体的な内容を知る。

### ●講義3 **市民が行う初期救助**(講師:元吹田市消防職員)

- ・発災後の消防の働きと実体験を聞き、災害をイメージする。
- ・初期救助の知識と技術を学び、自助・共助の理解を深める。



↑ 講義③初期救助の実演

### ●講義4 **能登半島地震の教訓から考える 自助・共助**

(講師:輪島市教育委員会教育部職員、吹田市総務部防災政策推進監)

- ・能登半島地震での避難所の実態や被災者の生の声を知り、避難所運営をイメージする。

### ●講義5 **避難所レイアウト体験&避難所受付・ラップポイントイレ体験&吹田市の防災教育**

(講師:講義4の講師+危機管理室職員)

#### (1)避難所レイアウト

内容:避難所のレイアウトの意味を、現物を見ながら学ぶ  
避難者役の演技等により、リアルな避難所をイメージする

#### (2)受付、トイレ体験

内容:避難所マネジメントシステムを用いて受付を体験、ラップポイントイレを知る

#### (3)防災教育

内容:危機管理センターツアーの一部コンテンツの体験



講義⑤  
避難所レイアウト  
体験の様子

危機管理室職員を  
避難者として  
配置し、  
様々な方がいる  
避難所の状況を  
再現しました

御参加いただいた方から、「どの講義も非常に参考になった」、「地域に帰っても周囲に伝えたい」「市で準備していることが分かった、地域としても防災にもっと思いを持って対策するのを感じた」「まずはコミュニケーションで地域の中で顔の見える関係をつくっていくことから始めようと感じた」等の御感想をいただきました。

来年度もより多くの方に受講し、地域防災リーダーに登録していただきたいと思っております。  
ぜひ来年度の地域防災リーダー育成講習への参加をご検討ください。

# 危機管理センターがリニューアルされました！

《新・危機管理センターツアー始動！》

小学生向け危機管理センターツアーがパワーアップしました！

危機管理室が実施している小学生向け危機管理センターツアーの内容を一部リニューアルし、新しくなった危機管理センターツアーが、ついに初陣を飾りました。

リニューアルのポイントは「体験型」の追求。

VRゴーグルを装着して災害映像をリアルに体験したり、カードゲーム形式で避難所に持って行くものを決めたり、地震が起こったらとっさにどう動くか考えてみたり。とにかく「やってみよう！」の要素をたくさん詰め込みました。

なかでもVR体験は人気が高く、参加した児童からは「とにかくVR体験が面白かった」「VR体験をするためにまた危機管理センターに来たい」という感想が寄せられました。

従来からのコンセプト、「見て、聞いて、やってみて」をさらに充実させたワクワクする危機管理センターツアー。ぜひたくさんの児童の皆さんに体験していただきたいと思います！

New!! 危機管理センターオープニング



New!! VR体験



避難所体験



## 地域で実施された訓練について

今年度も多くの地域で防災訓練が実施されました。危機管理室職員も参加させていただきましたので、一部御紹介させていただきます。

吹二地区防災運動会 11月16日（日）

今回の吹田第二小学校で行われた防災イベントは「訓練」という形ではなく、「**防災運動会**」という、さまざまな防災知識や行動を競技種目に落とし込んだ、体験型のイベントとして実施されました！

競技種目は、毛布を担架代わりにして負傷者を運びリレーや、水消火器を使った標的当て、バケツリレーなど、どれも運動会形式で楽しみながら学べる工夫が凝らされていました！ほかに、小学校備え付けの救助資器材の確認、AED取扱い方法、煙体験ハウスなど、内容が盛りだくさんなものでした。

幅広い年齢層の方が参加しており、いざ運動会が始まるとチーム対抗で声を掛け合いながら競技に打ち込む姿・真剣ながらも笑い声が絶えない雰囲気が見られ、会場全体が大きな盛り上がりを見せていました。

「楽しみながら学ぶ」という、エンターテインメント性の要素を取り入れた防災への取り組みは、活動に参加するハードルを下げ、住民同士の自然な交流を生み、災害時における共助の土台となる「顔の見える関係性」を築くこともできる非常に有効な手段だと感じました。



← 担架リレーの様子

## 吹南防災フェスタ 12月14日（日）

地域住民が楽しみながら学べる工夫が随所に見られ、実践的な備えの重要性を感じることができました！

### ① 災害救助犬の実施訓練

認定NPO法人日本レスキュー協会を招いた、**災害救助犬による搜索のデモンストレーション**が行われました！瓦礫の中に取り残された行方不明者を嗅覚で探し出す様子に、参加者は興味深く見入っている様子でした。

普段見ることのできない活動であることや、動物が活躍する姿に惹かれ、親子連れを中心に子どもの参加が多かったことが印象的で、救助活動の大変さや重要性を知る良い機会となりました。

### ② 能登半島地震の教訓を学ぶ避難所体験

**パーティションや段ボールベッドの組立、ラップポイントイレの実演**が行われ、参加者は避難生活を具体的にイメージすることができました。

また、能登半島地震の状況をパネルで学ぶことで、日頃の備えの必要性について理解を深める機会となっていました。

### ③ 「災害時、子どもを守るために」

子どもを災害から守るための工夫として、**ビニール袋を活用したおむつの代替方法**などを体験しました！物資が不足した際には身近なもので対応する知恵が必要であることを学ぶとともに、そのような状況に備えて日頃から自助として物資を準備しておく大切さを改めて感じられる内容となっていました。



## 竹見台防災講演会2026 2月28日（土）

自主防災組織の熱い思いがあってこそその実現でした。事前の調整から、想いを危機管理室にぶつけていただきました！

竹見台地区防災対策委員会が主催し、地域の防災意識向上・つながりを作る目的のもと、危機管理室・水道部からの講演の後に、**パーティションや段ボールベッド、災害用トイレ、給水体験**が実施されました。

本講演会は、竹見台地区防災対策委員会にとって初の試みでしたが自主防災組織で一丸となり、無事開催となりました！

案内チラシを全戸に配布し、自治会・マンション内でも周知があり、当日は**110人**の参加がありました。

ご参加いただいた方からは、「避難所に行くのが全てではないということを理解できた」、「断水の原因を理解でき、自分の住まいの仕組みを理解しておくことが大事だと思った」、「展示があったため避難所の具体的なイメージができた」、「発災して慌てないような対策を家族で話し合おうと思う」等の感想をいただきました！

